

かぐわしい詩の世界

バラの詩人

大手拓次展

前橋文学館
027・235・8011

わたしはよみがへる。

すべてのものをすてて、

O H T E
T A K U J I
大手拓次展
5/21(土) - 9/19(月・祝)
前橋文学館
萩原朔太郎記念・永志録と詩のまろ

あなたの詩をよむのは香水のほびをかぐやうな気持ちがある。— 萩原朔太郎



大手 拓次
1887(明治20)年
11月3日生
- 1934(昭和9)年
4月18日没

群馬県碓氷郡西上磯部村(現安中市磯部)、磯部温泉の鳳来館の次男として生まれる。両親を早くに亡くし、祖父母に育てられる。46歳で結核によって亡くなった。

早稲田大学在籍中にフランス象徴詩に傾倒。北原白秋の門下であった拓次は、萩原朔太郎や室生犀星とともに「白秋旗下の三羽鴉」と呼ばれ、朔太郎の詩にも影響を与えた。生涯の詩作品は2,400あまりあるが、生前に詩集は刊行されなかった。没後、親友・逸見享の編集により、詩集『藍色の墓』、詩画集『蛇の花嫁』、訳詩集『異国の香』、『詩日記と手紙』が刊行された。

前橋文学館で、特別企画展「すべてのものをすてて、わたしはよみがへる。— 大手拓次展」を開催します。ポードレルなどフランス象徴詩に熱中し、訳詩も手掛けた大手拓次。46歳で亡くなるまで、バラにまつわるものを含むたくさんの詩を生み出しました。本展では、「バラの詩人」と呼ばれる安中市出身の詩人・大手拓次の世界と萩原朔太郎との交流を振り返ります。



大手拓次展はこちら



前橋文学館ホームページはこちら

5月21日(土)～9月19日(月・水曜休館)、9時～17時(入館は16時30分まで)
500円(5月21日(土)、9月3日(土)・19日(月)、前橋七夕まつり開催日、高校生以下と障害者手帳などを持っている人と介助者1人は無料)

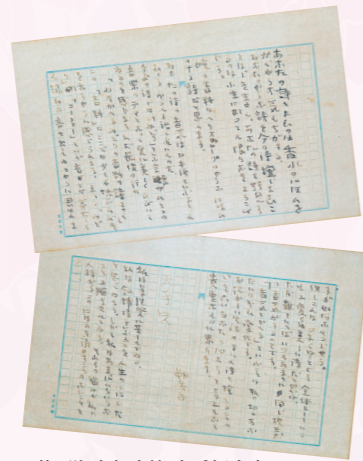
関連イベント

1 「大手拓次を読む—こえはあさつゆのきえるけはい」
文学館ホールで、大手拓次の詩を朗読します。

9月一般、先着50人
8月20日(土)14時
7月23日(土)から同館へ

2 学芸員による展示解説
7月9日(土)・8月7日(日)、14時
文学館2階企画展示室

9月一般、先着20人
当日会場へ直接



萩原朔太郎書簡 大手拓次宛
1917(大正6)年



『藍色の墓』
1936(昭和11)年

Interview

彼の詩を五感で体験できます

大手拓次は詩人というだけでなく、現代でいうコピーライターの先駆けのような仕事をしていました。萩原朔太郎とは文通でやり取りをしていて、朔太郎が拓次の詩を評価している内容の書簡も残されています。

この企画展では、彼が関わった商品を実際に展示するほか、彼の詩にちなんだ36本のバラの詩の柱を設置、彼の最期を想起させる病床の再現にも挑戦します。

詩を朗読した動画やバラの香りなど、見るだけでなく五感で楽しめるような展示方法にも、ぜひ注目してもらいたいと思います。



前橋文学館長
萩原 朔美

私が出会った表現者たちV 日常の実験・実験の映像 かななかのぶひろ展

前橋文学館
027-235-8011

前橋文学館長・萩原朔美が出会った表現者たちを作品と共に紹介するシリーズ第5弾です。数々の実験映画を手掛け、イメージフォーラム映像研究所を設立し、後進の育成に尽力する作家かななかのぶひろさんを紹介します。会期中、展示替えと作品上映会を予定。詳しくは同館ホームページをご覧ください。

5月28日(土)～9月25日(日)(水曜を除く)



リーディングシアターフェス 2022 IN マエバシ

前橋文学館 027-235-8011

これまで前橋文学館で開催し、好評だった朗読と舞台演出のリーディングシアターを開催します。

6月26日(日)・7月31日(日)・8月28日(日)・9月25日(日)・11月27日(日)・12月25日(日)・来年1月29日(日)・2月26日(日)、13時・15時

9月一般、先着各50人 各500円

開催日の前月最初の日曜から同館へ